

学校点描

稀に見る高温の中、できることは、少しでも朝早く出勤して教室の窓を開放することです。

《S中学校》

NO.7 H30. 7. 26

担当：教頭

今学期もいよいよ終わりました。今現在、生徒や保護者の皆さんからいただいたアンケートを集計し、記述されているご意見を読ませていただいたりして、来学期以降、改善しなくてはならないことをまとめています。学校への温かい励ましがある一方、厳しいご意見もあります。厳しいご意見こそ最大の励ましととらえ、しっかり読ませていただいております。

ネット、SNSに関することと家庭学習に関することについては、評価が低いようです。学校もご家庭も心配な点は共通していることが見えてきています。振り返ると今学期もSNSの使い方での問題がありました。そういうこともあり、終業式のあと、生徒指導よりSNSの使用でトラブルを起こさない、巻き込まれないことへの注意と指導を行いました。このように夏季休業中での生活にすこし釘をさしましたので、ご家庭でもその釘が緩まないように、共通して指導をお願いします。

「中学校の校舎がきれいよい。」というご意見も見つけました。この暑い中ですが、生徒たちは、膝をついて廊下の床拭きをしてくれています。私も一緒に床拭きをしています。この暑さにこの年齢は答えます。すると1年生のS・Mさんが「先生無理しないで」と声をかけてくれます。

同感より共感2

トンビはなぜ輪を描いて飛ぶのかを研究した人がいるそうです。翼をばたつかせないで滑るように飛んでいます。これは、上昇気流の塊（上昇気泡と言うのだそうです）の縁からはみ出さないように、三味線のバチみたいな尾羽を上手に動かしながら滑空しているからだそうです。うまく上昇気流に乗っているとすれば、翼は動かさなくともただ風に身を任せるだけでいいわけです。苦労せずともどどん高みを目指せる道理がわかります。

県中総体の壮行式で空手のO・Kさんは、全国大会で披露する形を披露してくれました。始めは、生徒の中からニヤニヤ笑う声が聞こえていましたが、O・Kさんが一人ステージの上で、真剣な表情で力が入った演技をしていると、次第にみている生徒も心が打たれてきたようで、道着が擦れる音しか体育館にはしなくなりました。演技が終わると、「お～！」という声とともに、満場の拍手が自然発生しました。

吹奏楽のS・KさんとY・Mさんは、曲を披露するまえに、曲目を紹介してくれました。「私たちの曲目は『ゴーストトレイン』です。実在しない幽霊列車が走っているところを想像してみてください。」こんな紹介のあと、吹奏楽部の演奏が始まります。なるほど、ゴーストトレインの発車、走行、停車などの描写が本当に素晴らしく、演奏を聴いている全校生はそれぞれの頭の中で、やや不気味な雰囲気電車が走っている様子を思い描いているようです。演奏が終わるとこれまた、盛大な拍手が自然発生しました。



このような姿を見ると、こんな雰囲気醸し出す学校はすてきなだあと感じます。どんなことにも頑張っている仲間がいたら、努力すること自体や努力した成果をしっかり称賛してあげる。そうすると、自分もなにか頑張りたいと思えてくる。学校に上昇気流が自然発生する原理なのでしょう。

授業開始時間より早く教室に行きます。まだまだ生徒たちは、友人と話したい事がいっぱいです。

「昨日、〇〇（名前）が休んだから（部活？、塾？）、プリントを家に届けたら、元気な顔してだっけよ」と、誰かが言っています。それを聞いている周りの子は、「えー？やばくね！」という声。きっと、ズル休みしていたんだって言わんばかりです。

生徒達の何気ない日常の会話を聞いてみると、特に仲良しグループでは同調し、同感しあう会話が多いのに気づきます。これは、Lineやメール、ネットでの会話が、どうしても相手の話と同調する傾向が強いからではないかと思うのです。SNSは、同調・同感したら『いいね！』とボタンを押すサイトがほとんどです。同調・同感の押し売りです。

子どもの社会は同調の脅迫概念が支配することがあります。だからこそ、相手の勝手な判断にも、すぐに同調・同感してしまいます。「わたしだけじゃない、みんなもやっているもん」そんな言葉の裏側にあるのが、この同調・同感する子どもの社会構造です。この構造は、大人にもあります。

「きっと恥ずかしかったんだよ」傍らにいた女子生徒が話しているのが聞こえました。

するともう一人が「（家にきてくれて）照れてるんじゃない」なんて言っています。

同感の結果に対しての同感、共感の出発点を同じにすること。

同感になれた子どもたちに、共感の大切さを知ってほしいんです。相手が発した言葉の裏にあるのは、その出発点は何か。そこに共感が生まれます。

同感よりも共感。他者の立場を考える生徒が増えれば増えるほど、学校に吹く上昇気流の風は、強く吹き続けます。

今日もS・Mさんが、タオルを巻いてヒイヒイ言いながら床拭きしているわたしを見つけると「先生、大丈夫？」と声をかけてくれました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。